

2017 年度目録委員会記録 No.11

第 11 回委員会

日時：2018 年 3 月 10 日（土）14 時～17 時 30 分

場所：日本図書館協会

出席：渡邊委員長、木下、河野、田代、津田、野美山、平田、村上

<事務局>三浦

[配布資料]

1. 刊行に向けてのメモ（2018.3.10）（4 ページ-A4、渡邊委員長）
2. 付録#D 用語解説（2018 年 3 月 9 日 NDL 収集書誌部修正）（25 ページ-A4、田代委員）
3. 総説、属性総則の要検討事項（2018.3.10）（3 ページ-A4、渡邊委員長）
4. タイトルの確認事項（2018.3.10）（5 ページ-A4、野美山委員）
5. 確認事項抜粋（#2.3, #2.4）（1 ページ-A4、河野委員）
6. NCR2.14-42, 3 の確認事項（2 ページ-A4、村上委員）
7. 2018.3.10 目録委員会検討事項（1 ページ-A4、横山委員）
8. 2018.3.10 目録委員会検討事項その 2（4 ページ-A4、横山委員）
9. #42~43 の確認点（2 ページ-A4、木下委員）
10. 『日本目録規則 2018 年版』（予備版）公開と今後のスケジュールについて（1 ページ-A4、渡邊委員長）
11. 目録委員会報告案（2018.3.10）（8 ページ-A4、渡邊委員長）
12. パブリック・コメントその他検討課題への対応について（9 ページ-A4、渡邊委員長）
13. （パブリック・コメント）その他個別的な事項への対応（7 ページ-A4、渡邊委員長）
14. 『日本目録規則 2018 年版』（予備版）ヘッダ見本（1 ページ-A4、渡邊委員長）
15. 日本目録規則 2018 年版予備版カバーページ（1 ページ-A4、村上委員）
16. NCR_ロゴ案（1 ページ-A4、村上委員）
17. （参考）クリエイティブ・コモンズ・ライセンスとは（5 ページ-A4、村上委員）
18. 日本目録規則 2018 年版予備版_ウェブサイト画面案（1 ページ-A3、村上委員）
19. NCR2018 年版 PDF ページ数（2018.3）（1 ページ-A4、渡邊委員長）
20. 冊子体作製スケジュール例（2 ページ-A3、事務局）
21. 2017 年度第 10 回目録委員会記録（案）（3 ページ-A4）

[報告事項ほか]

1. 議事録の確認

2017 年度第 10 回の記録（資料 21）を確認した。

2. その他活動報告

『現代の図書館』55(4)が刊行された。「特集：新しい『日本目録規則（NCR）』」のテーマのもと、渡邊委員長、蟹瀬智弘氏、木村麻衣子氏の論考が掲載されている。渡邊委員長の記事は、策定側からの NCR2018 に対する最新の公開記事になるので、目録委員会ウェブサイトで開催できるよう、編集委員会と折衝する。

[検討事項]

1. NCR2018 年版予備版の完成作業と公開について

資料 1、10、11、14、15、16、17、18 に基づき、今後の作業内容と進め方、スケジュールについて確認した。

・NCR2018 年版予備版のウェブ公開日を 3 月 28 日に決定した。予備版のウェブサイト公開について、作業手順等を確認した。なお、NDL のウェブサイトも同日にタイミングを合わせて修正公開する予定。

・チェック担当者による指摘・確認事項については、もとの担当者が条文案への反映を行うこととする。

・エレメント一覧については、設定したエレメントの索引の役割に特化することとし、NCR1987 年版で使用された旧用語から現用語への参照は行わないこととする。

・予備版の公開 PDF ファイル名を検討した。「ncr2018p_05_201803.pdf」のように、予備版を表す ncr2018p に章番号と公開年月をアンダーバーでつなぐ。2 章のように複数の PDF ファイルから成る場合は、章番号と公開年月の間に条項番号を挿入する（例：ncr2018p_02_00-02_201803.pdf）。本版では予備版を表す p を取る。

・条文に付すヘッダーと、ファイル単位で付すカバーページについて検討した。NCR2018 のロゴをカバーページに付す案が出たが、見送ることとした。ただし、「日本目録規則」の英語形「Nippon Cataloging Rules」はカバーページに入れることとした。

・予備版への CC ライセンス付与について検討した。付与に向けては、目録委員会の見解をまとめて JLA に照会する流れとなるため、本版に向けて課題を整理することとする。

・目録委員会報告案の内容につき、NDL の確認結果を反映し、内容を確定した。

・「パブリック・コメントその他検討課題への対応」について、14 日までに NDL で確認し、その後確定させる。Word 文書の資料 12 と Excel 形式の資料 13 は、公開時には 1 本の PDF ファイルにまとめる。

・予備版公開時に、予備版での保留部分の扱いや本版の全容について、資料 10 で説明することとする。

2. 付録「#D 用語解説」について

資料 2 に基づき、検討を行った。

・収録範囲は、出典が ICP のものや一般用語も含まれるため、「ICP、FRBR、RDA など」とすることとした。

・用語「オーディオ・カートリッジ」は、日本では RDA よりも広い概念で使われる用語である。また、記録媒体を収めたカートリッジという意味が分かるように、解説を修正した。「ビデオ・カートリッジ」も同様。

・用語「識別子」の解説文中の「区別する」を「判別する」に修正する。総説の#0.3.4 も同期をとって「判別する」に修正する。

・出典がない英語形は削除する。用語「従属タイトル」「書誌的巻数」などが対象。「任意規定」「別法」なども英語形は不要とする。用語「内部情報源」は RDA 本文が由来であり、RDA registry に含まれない語のため、英語形を削除することとした。

・用語「主題」の解説を検討した。FRBR 第 3 グループの実体が相当することに加え、第 1 および第 2 グループの各実体も、著作が何についてのものであるかに関する対象となる

ことが分かるように、これらも第3グループの実体とみなすことがあること、第3グループの実体の総称として「主題」を用いることを明記した。

・用語「法域」の解説を、「法令を制定し施行する公的団体によって管轄されている領域。国、州、県、市町村など。」とした。

3. 総説、属性総則の検討事項について

資料3に基づき、検討を行った。

・「#1.10.11 誤表示 別法」と「#2.1.0.4.1 誤表示 別法」で、「正しい表記に改め」「正しい形に訂正し」と表現が揺れている。「正しい表記に改め」に揃えることとし、他の場所も揺れがあれば揃える。

・「#1.11.3 韓国・朝鮮語」は、日本語および中国語と異なり、漢字の場合に常用漢字表に収録されている字体で記録する別法の規定を置いていない。現在では非常に稀なケースと考えられるため、運用の範囲内とし、別法は設けないことを再確認した。

4. 条文各章の検討事項について

資料4、5、6、7、8、9に基づき、確認を行った。

・#2.1.1.2.7の本則と別法の違う箇所を「*」で表すと、本則につけざるを得ない。これまでは「*」を付すのは別法で、本則や例示には付さないこととしてきた。検討の結果、本則の条文を修正のうえ別法に条文を追加し、別法の追加部分に「*」を付すこととした。

・参照先が規定全体か、その中の部分だけか（例えば、b）のみの場合）によって、参照先の書き方を揃える必要がある。

・「#2.3.0.6 変化」の規定の末尾に、識別に重要なときに注記する旨が必要なので、本文と注記（#2.41.3.2.4.2）への参照を追加する。注記の規定から#2.3.0.6への参照も追加する。

・#2.17.2の参照の書き方につき、参照先が規定のタイトルを指していたり、本文を指していたりして不揃いとの指摘があった。検討した結果、今いる条文から見た分かりやすさを優先することとし、それを参照全体の方針とした。

・単位の英語形を示すときに、単数形と複数形を表現する方法につき指摘があった。page(s)やcolumn(s)は(s)を単数形の末尾に付すことで複数形を表現できるが、leafとleavesなどはどうすべきか。4月以降の本版に向けた検討に付すこととする。

5. 本版刊行に向けての作業について

資料1、19、20に基づき、12月刊行予定の本版について検討を行った。

・予備版には含めない付録の今後の作業について確認した。#B.1はファイルに残るコメントをはずしてNDLに送付し、NDLの確認に付す。#D（用語解説）は、追加分約150語につき、これまでの方針変更などを目録委員会で反映のうえでNDLに送付し、NDLで確認する。さらに、語彙のリストの用語について検討する。RDAで使われている語については、RDA registryに含まれるものは利用許諾の必要はない。なお、これら追加の用語には、古いメディアの用語や運動譜など特殊な用語が多く、有識者の知見を要すると思われる。

・冊子体作製のスケジュールについて確認した。

・PDFファイルのページ数想定は出せているので、これをもとに事務局で合い見積を早め

に行い、印刷業者を決定する。

次回以降の委員会の予定

4月21日（土）

5月19日（土）

6月16日（土）

以 上